

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年8月2日(2007.8.2)

【公表番号】特表2006-528618(P2006-528618A)

【公表日】平成18年12月21日(2006.12.21)

【年通号数】公開・登録公報2006-050

【出願番号】特願2006-520907(P2006-520907)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/7105	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/713	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	Z N A
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	31/7105	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	43/00	1 0 5
A 6 1 K	31/713	
C 1 2 N	15/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月12日(2007.6.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

相同的組換えを仲介する遺伝子の欠陥によって引き起こされる疾患を治療するための医薬の製造における、DNA鎖切断の修復を仲介する酵素の活性を阻害する薬剤の使用。

【請求項2】

酵素がポリ(ADP-リボース)ポリメラーゼ(PARP)である、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

薬剤がPARP阻害剤である請求項2に記載の使用。

【請求項4】

PARP阻害剤が、PARP-1、PARP-2、PARP-3、PARP-4、タンキラーゼ1及びタンキラーゼ2からなる群より選択される、請求項3に記載の使用。

【請求項5】

PARPがPARP-1である請求項4に記載の使用。

【請求項6】

薬剤がPARP遺伝子に特異的なRNAi分子である、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項7】

RNAi分子が、

- a) 図9、10、11、12、13若しくは14の配列によって表される核酸配列、又はその断片、
- b) 図9、10、11、12、13又は14の核酸配列とハイブリダイズし、かつPARPの遺伝子をコードする核酸配列、あるいは
- c) 遺伝子コードにより、(a)及び(b)に記載される核酸配列と縮退している配列を含む核酸配列、

からなる群より選択された核酸配列を含む核酸分子に由来する、請求項6に記載の使用。

【請求項8】

RNAi分子が、aaa agc cau ggu gga gua ugaの核酸配列を含む、請求項6又は7に記載の使用。

【請求項9】

RNAi分子が、aag acc aau cuc ucc agu uca acの核酸配列からなる、請求項6又は7に記載の使用。

【請求項10】

RNAi分子が、aag acc aac auc gag aac aacの核酸配列からなる、請求項6又は7に記載の使用。

【請求項11】

欠陥がHRに関するタンパク質をコードする遺伝子中の突然変異である、請求項1~10のいずれか1項に記載の使用。

【請求項12】

欠陥がHRに関するタンパク質をコードする遺伝子の欠如である、請求項1~10のいずれか1項に記載の使用。

【請求項13】

欠陥がHRに関するタンパク質をコードする遺伝子の発現にある、請求項1~10のいずれか1項に記載の使用。

【請求項14】

HRを仲介する遺伝子が、XRCC1、ADPRT(PARP-1)、ADPRTL2(PARP-2)、CTPS、RPA、RPA1、RPA2、RPA3、XPD、ERCC1、XPF、MMS19、RAD51、RAD51B、RAD51C、RAD51D、DMC1、XRCC2、XRCC3、BRCA1、BRCA2、RAD52、RAD54、RAD50、MRE11、NBS1、WRN、BLM、Ku70、Ku80、ATM、ATR、chk1、chk2、FANCA、FANCB、FANCC、FANCD1、FANCD2、FANCE、FANCF、FANCG、RAD1、RAD9、FEN-1、Mus81、Eme1、DDS1及びBARDからなる群より選択されたものである、請求項1~13のいずれか1項に記載の使用。

【請求項15】

癌の治療における請求項1~14のいずれか1項に記載の使用。

【請求項16】

癌が、肺癌、大腸癌、膵臓癌、胃癌、卵巣癌、子宮頸癌、乳癌及び前立腺癌からなる群より選択されたものである、請求項15に記載の使用。

【請求項17】

ヒトにおける癌である請求項15又は16に記載の使用。

【請求項18】

癌が遺伝子に関連する遺伝性癌である、請求項15~17のいずれか1項に記載の使用。

【請求項19】

癌が乳癌である、請求項18に記載の使用。

【請求項20】

処置対象の癌細胞がBRCA1発現に欠陥を有する、請求項15~19のいずれか1項に記載の使用。

【請求項21】

処置対象の癌細胞がBRCA2発現に欠陥を有する、請求項15~19のいずれか1項に記載の使用。

【請求項22】

癌細胞がBRCA1発現及び/又はBRCA2発現に部分的に欠陥を有する、請求項20又は21に記

載の使用。

【請求項 2 3】

癌細胞がBRCA1発現及び/又はBRCA2発現に全体的に欠陥を有する、請求項20又は21に記載の使用。

【請求項 2 4】

HRを仲介する遺伝子が腫瘍抑制遺伝子である、請求項1~23のいずれか1項に記載の使用。

【請求項 2 5】

腫瘍抑制遺伝子がBRCA1である、請求項24に記載の使用。

【請求項 2 6】

腫瘍抑制遺伝子がBRCA2である、請求項24に記載の使用。

【請求項 2 7】

HR欠陥性細胞のアポトーシスを誘導するための医薬の製造におけるPARP阻害剤の使用。

【請求項 2 8】

HR欠陥性細胞が癌細胞である請求項27に記載の使用。

【請求項 2 9】

HRに欠陥のある癌細胞がHRに部分的に欠陥を有する、請求項28に記載の使用。

【請求項 3 0】

HRに欠陥のある癌細胞がHRに全体的に欠陥を有する、請求項28に記載の使用。

【請求項 3 1】

相同的組換えを仲介する遺伝子の遺伝的欠陥によって引き起こされるヒトを含む哺乳動物の疾患又は症状を治療するための医薬組成物であって、DNA鎖切断の修復を仲介する酵素の活性を阻害する上記組成物。

【請求項 3 2】

哺乳動物でHR欠陥性細胞のアポトーシスを誘導するための、PARP阻害剤からなる医薬組成物。